おきぎん調査月報

2015 5 No.488

表紙写真/奥ヤンバル鯉のぼり祭り

CONTENTS

ご覧になれます。

1 くがにくとぅば[黄金言葉] vol.134
人間万事塞翁が馬
上地司法書士事務所　司法書士　上地　玄良

4 【スポット調査】～県内における賃金引上げの動向～

5 地域リレーションシップ情報⑫⑤
マイナンバー法施行に伴う民間事業者の取組
「マイナンバー法が平成28年1月1日より施行されます」

6 けいざい風水

8 おきぎんカトレアクラブ通信

10 最近の県内経済の動向
2015年2月の県内景況

12 国内景気動向

14 沖縄マーケティング情報
①沖縄県内の事業所数・従業者数・人口・世帯数
②世界の中の沖縄(年次)
③グラフでみる沖縄経済
④数値でみる沖縄県・全国の経済動向(月次)

34 経済社会のできごと(沖縄、国内・海外)
2015年3月

36 各種セミナー等開催インフォメーション

38 おきぎん調査レポート・バックナンバー(分野別)

42 ゆがふ編集後記

おきぎんカトレアクラブ会員の皆様へは「おきぎん調査月報」をインターネットでも公表しております。
https://cattleya.okinawa-bank.co.jp/index.jsp
※「おきぎん店舗一覧」につきましては、沖縄銀行ホームページをご参照下さい。

人間万事塞翁が馬

上地司法書士事務所
司法書士　**上地　玄良**

今回は、市民に開かれた町の法律家として那覇市の泊１丁目で30年、司法書士事務所を営んでおられる司法書士の上地玄良先生にご寄稿いただきました。

人間万事塞翁が馬

この故事の意味する所は、人生に於ける幸不幸は、予測し難いということ。幸せが不幸に、不幸が幸せにいつ転じるか分からないのだから、安易に喜んだり悲しんだりするべきではないというたとえ。昔、中国北方の砦近くに住む占いの巧みな老人（塞翁）の馬が、胡の地方に逃げ、人々が気の毒がると、老人は「そのうちに福が来る」と言った。やがて、その馬は胡の駿馬を連れて戻って来た。人々が祝うと、今度は「これは不幸の元になるだろう」と言った。すると胡の馬に乗った老人の息子は、落馬して足の骨を折ってしまった。人々がそれを見舞うと、老人は「これが幸福の基になるだろう」と言った。一年後、胡軍が攻め込んで来て戦争となり若者達は殆どが戦死した。しかし足を折った老人の息子は、兵役を免れたため、戦死しなくてすんだという故事に基づく。出典は「准南子」人間訓。私の座右の銘でもある。

私自身もこれまで、まさにこの「人間万事塞翁が馬」であった。これからもそうであって欲しいと思っている。

脱サラして司法書士試験を目指す

会社員生活に挫折した私は、足かけ７年勤めた会社を退職して、司法書士試験を目指してみようという気になった。それは、高校の先輩で司法書士をしているＷさんが、盛んに勧めてくれたこともあり、大学も法科を出たので、法律に関わる仕事がしたいと思っていたからでもある。

私はどうも会社員には向かないのではないかと、思い始めていたので妻に相談してみたら、妻はあっさりと「あんたは向かないよ、生意気だし」と言った。

今後の事もいろいろ相談した結果、「私は単身東京に行き、１年で司法書士の資格を取って帰って来るから、その間子供と一緒に妻の実家で居候していてくれ」と言った。３才の子供は保育園に預け、妻は昼間は近所の会社で事務員として働く事にした。

東京での生活費や学費が幾らかかるかも何も調べずに東京に出た。東京法経学院に行き「１年で合格出来るコースをお願いします」と受付に言うと、「とんでもない、平均して10年かかります」と言われた。それに学費は１年間で200万円、生活費は１か月最低でも10万円かかると。私の軍資金は僅かな退職金だけであった。自分の無知と甘さとで目の前が暗くなった。

しかしもう引き返す事は出来ない。学校は途中からであったので、一番安いコースに潜り込んだが、それでも学費は到底足りないので、すぐさまアルバイトを探すことにした。都立高校の宿直警備員を見つけて、昼は学校、夜は警備員としての生活をスタートした。この生活を２年間続けてようやく合格した。

その後１年間配属修習を受けて沖縄に帰って来た。私が東京にいる間、妻は実家の近くで事務員をしながら、子育てもした。東京には一緒に行きたかったらしいが、私が止めた。合格できるかどうかも分からない受験勉強中、背水の陣でかからなければ、到底合格出来ないと、心

を鬼にして臨んだからである。その恨み言は合格した後もずっと言われ続けた。

司法書士事務所を開業する

私の事務所では、会社設立、役員変更、解散、精算、不動産の売買、担保権の設定、代位弁済、船舶、建設機械等、金融機関に関係する登記業務、公正証書遺言、相続、相続の代位、自己破産、不当利得返還請求訴訟等が比較的多い。その他に那覇地裁・那覇簡裁所属の民事調停委員、那覇市役所の消費生活特別相談員、連合沖縄相談センターの相談員、総理府暮らしの総合行政相談員、沖縄県司法書士会総合相談センター相談員等の活動を通して、市民に開かれた町の法律家として業務に携わっている。

出来るだけ相談に来られた市民の声をよく聞いて、解決方法をいくつか示して、相談者が納得のいく解決を目指している。市役所等での相談に来られた市民には、出来るだけ勇気づけて、絶対に解決出来るからと励ましている。相談を終えて帰るときの笑顔を見るのが一番嬉しいし、自分のやりがいでもある。

時代が変わる怖さ

どんな仕事でもそうであるが、習得した一つの仕事だけで、10年も20年も食って行けるものはないと言われる。これは司法書士の世界も同じである。法律は毎年のように何かしら改正されていく。100年振り、50年振りの大改正も最近は多い。

時代の変革に合わせながら、常に新しい分野に対応出来るように学習しておかないと取り残されてしまう。仕事が順調に推移し、社会全体が好景気に沸いている時、その時こそ来るべき次の不況の波を覚悟して、真摯に生きることが大切ではないかと思う。

好景気の中に既に不況の芽が芽生えているように、全ては当たり前が続くことはないのである。その怖さを肝に銘じなければいけないと考える。

時代の波に一喜一憂し、ある時はもの凄く悲観し、ある時はすぐに慢心してしまうのは私達の日常である。しかし、時代は常に移ろうものだという畏れを持ち続けることが大切なのではないだろうか。

最近の傾向としては世界がグローバル化してきている。これまでは少数派であった、渉外登記がにわかに台頭している。外国人が日本の不動産を購入する、外国人が日本に会社を設立する、外国人と結婚した日本人が、日本にいる親の相続人となった相続の登記、ブラジル、ボリビア、アルゼンチン等に移民で渡った人が、外国で死亡し日本に残された財産を遺産分割する等の事案が多く見られるようになっている。

そういう事案にも対応出来るように、私の事務所では準備を始めている。その対策の一つとして特定非営利活動法人渉外司法書士協会に加入し、研修にも積極的に参加していくつもりだ。

業務を通して見えてくるもの

30年もの長い間、企業の様々な仕事を通して概観していると、不思議なものが見えてくる。

ある上司の下では、部下がよく育っていく。そのやり方を見ていると、出来ない部下には、ただやれとだけ言うのではなく、営業であれば自ら一緒に同伴して教えていく、つまりやって見せるのである。その部署での雰囲気も皆が協力しあって、和気あいあいとしているし、協調性が出来ている。

反対にそうでない上司は、方法も示さずにただやれと言う。毎日のようにガミガミと怒鳴ってばかりいる。業績が上がらないのは、全て部下のせいにしている。その部下達の多くはうつ状態で、全体的に雰囲気も暗いし、笑顔も無い。

また企業の中には、一匹オオカミと言われる者がいる。自分の事しか考えない、仕事も他の者には教えない、自分にしか出来ない分野を作ろうとする。企業全体での業績を見れば大して上がっていない。むしろ下降気味である。これも仕事は全員で協調してやるという指導を徹底していかないと、思わしくない結果となるようである。

「企業の強さの第一条件は、チームワーク、人の和です」と言った人がいる。全くそのとおりだと思う。

上地司法書士事務所
〒900-0012
那覇市泊1丁目1番地3　堀川産業ビル　2階A
電話：098-861-2308
FAX：098-861-2096

けいざい風水

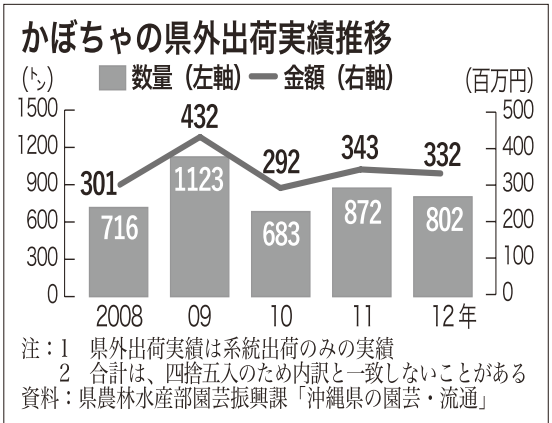
豊見城市の農産物
ブランド確立を図る

豊見城市は2002年４月の地方自治法施行後初の市制移行により村から市になりました。同市は早くからマンゴーの栽培を展開し、00年に県内初となるマンゴー拠点産地の認定を受けました。09年には豊見城産マンゴーのPRとブランドの確立を目的として「マンゴーの里」宣言を行うなど積極的な取り組みがみられます。また、野菜のトマト、果樹のパパイアなどの品目についても県の拠点産地の認定を受けており、「おきなわブランド」の確立に向けて活性化を図っています。

現在、新たな取り組みとして「万次郎かぼちゃ」の普及に取り組んでいます。「万次郎かぼちゃ」とは、約20年前に品種交配改良により高知県で生まれた、奇跡の品種として有名です。名前の由来は日本開国の祖であるジョン万次郎氏にちなんでつけられたものですが、実は、ジョン万次郎氏は琉球王国時代に沖縄に半年間ほど滞在したことがあるようです。その滞在場所であった豊見城市の字翁長に記念碑が建立されていることなどがきっかけで、豊見城市は万次郎氏の出生地である高知県の土佐清水市と姉妹都市提携（1993年）を結び、以降、両市の交流が深まっています。

県内ではカボチャの拠点産地として南風原町、宮古島市、名護市が認定されていますが、今後、豊見城市の「万次郎かぼちゃ」への取り組みが進み、次なる拠点産地となることを期待したいものです。

（沖縄銀行　とよみ出張所所長　照屋　尚）



注：1　県外出荷実績は系統出荷のみの実績
　　2　合計は、四捨五入のため内訳と一致しないことがある
資料：県農林水産部園芸振興課「沖縄県の園芸・流通」

（平成27年１月18日掲載）

発展する真志喜・宇地泊
人口増を経済効果へ

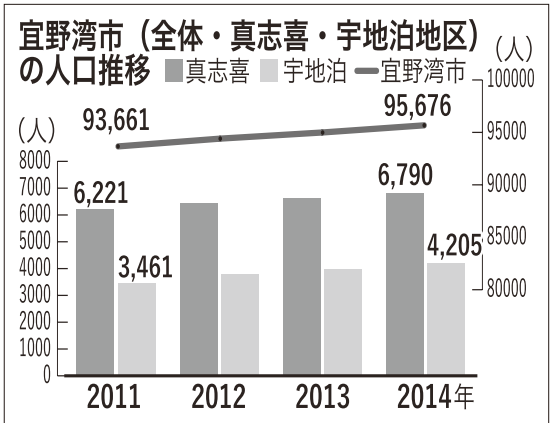
当支店が所在する宜野湾市真志喜地区および隣接する宇地泊地区は、区画整理事業により目覚ましい発展を遂げています。宇地泊第２地区は、1994年から土地区画整理事業が始まり、宜野湾市の西海岸地区の新しい街づくりを推進しています。国道58号沿いは飲食店が立ち並び、コンベンションセンター近くに大型ショッピングセンターなどの商業施設がオープンし、良好な住宅地および商業地が配置され市街地を形成しています。

宜野湾市の行政区別人口統計によると、両地区の2014年12月末現在の人口増加率（11年12月比）は、宇地泊地区が21.5％、真志喜地区が9.15％と同市全体の人口増加率2.15％を大きく上回っています。商業施設などによる居住環境の利便性向上や、住宅やアパート建築が続いていることなどから、今後も人口増加が期待されます。

一方、急激な人口増に比べ地域事業所へ経済効果が出せていないといった課題もあるようです。そこで、真志喜地区では小売店、飲食店などの事業所を中心にNPO法人沖縄コンベンションシティ会を発足（1999年）させ、清掃活動やイベント開催などを通してホテル、ビーチなどからの誘客や西海岸地域の活性化を進めています。

今後、このようなNPO法人の活動が進み、良好な市街地の形成とともに地域のつながりが深まっていく街づくりを期待したいものです。

（沖縄銀行　大謝名支店長　仲間　睦）



（平成27年１月25日掲載）

※琉球新報に掲載

観光客のニーズ多様化

ソフト面の質向上を

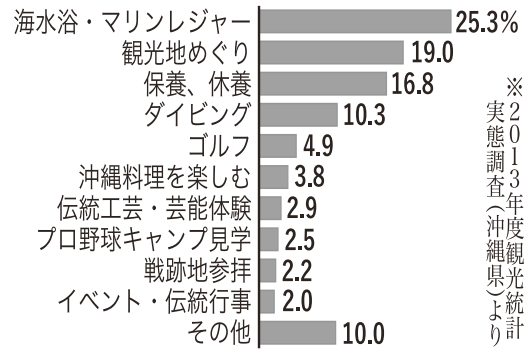
沖縄県を訪れる観光客は、日本復帰した1972年には約44万人でした。75年の沖縄国際海洋博覧会開催により約156万人へ増加し、その後も増加傾向がみられ、2014年は過去最高の約705万人となりました。県の総人口約142万人と比べて約５倍になります。

近年の増加要因としては、12年以降のLCC（格安航空会社）参入や13年の新石垣空港開港による国内・海外航空路線の拡充に加えて、クルーズ船の寄港回数増などが挙げられます。ことしの見通しについても景気の緩やかな回復基調や円安の継続予想などから入域観光客数の増加が見込まれています。

県がまとめた「平成25年度観光統計実態調査」によると、旅行中の活動として「観光地めぐり」や「沖縄料理を楽しむ」「ショッピング」が上位を占めています。次回希望する体験では「海水浴・マリンレジャー」や「ダイビング」などの夏場の活動が人気の中で、冬場でも可能な「ゴルフ」や「プロ野球キャンプ見学」との声も聞かれています。

受け入れる側の沖縄としても、ホテルや商業施設などの建設、公共交通の整備といったハード面の充実だけでなく、施設や商品案内の多言語表記や観光産業従事者の語学力向上などソフト面の質の向上が、観光客数１千万人を目指す上で不可欠ではないでしょうか。

（沖縄銀行 ローンFPステーション北谷店長　又吉真弓）



（平成27年2月1日掲載）

宜野湾市の「まちニコ」運動

笑顔、声かけで活性化

「まちでニッコリ！　あいさつ・声かけ運動」をご存知でしょうか。宜野湾市は、行政と市社会福祉協議会が中心となり、市全体で笑顔・あいさつを通してお隣近所が知り合いになるきっかけ、地域住民がつながるまちづくり運動を展開しています。

2006年に計画が策定され、07年の準備期間を経て08年４月から「まちニコバッジ」「まちニコのぼり」などを作成し、活動が始まりました。現在、市内の84もの企業･団体が賛同し､約８千人の「まちニコバッジ」を着けた「あいさつ・声かけひろめ隊」が活動しています。

主な活動内容は、ちびっこひろめ隊員の証しとして市内の小学校１年生へ「まちニコシール」の贈呈、毎月25日の「まちニコ（25）DAY」に行う賛同企業･団体での積極的なあいさつ運動の展開、「まちニコあいさつ声かけ運動推進リーダー養成講座」の開催などがあります。運動展開の当初は、地域の小･中学校、PTA、保育園、自治会が主な賛同団体でしたが、近年は金融機関などの民間企業も増えてきています。

笑顔とあいさつにより地域と企業のつながりが深まり、企業イメージや職場内コミュニケーションが向上していくことで、地域経済の活性化が期待されます。「エガオノミクス」第一の矢として、「まちニコバッジ」を着けての「まちでニッコリ！　あいさつ･声かけ運動」の展開はいかがでしょうか。

（沖縄銀行　我如古支店長　砂川雄一郎）

宜野湾市内の企業・団体が着けている「まちニコバッジ」

（平成27年2月8日掲載）

ゆがふ編集後記

100の指標からみた沖縄県のすがた

読者の皆様は、沖縄県統計協会が、「100の指標からみた沖縄県のすがた」という小冊子を定期的に発刊（書店で買えます）しているのをご存知でしょうか。最新版は平成26年10月号で、今回は３年ぶりの刊行との事です（冊子のはしがきに記載されていました）。

この冊子では、県民生活を、自然環境面から始まり、人口、産業・経済、労働や生活環境、福祉医療、教育文化、財政など、さまざまな角度から数値化されたデータを用いて都道府県ごとにランキングしています。ランキングの順位を単純に全国平均や他府県と比較していくことで、沖縄県の姿を客観的に見ていく、という趣向で編集されています。

さて、この冊子を読んでいると、わが沖縄県は、非常に特徴的な県、地域だということが良くわかります。ランキング１位（最高位）と、47位（最下位）が非常に多いのです。まずは有名なところで、〈出生率１位〉、〈死亡率47位〉。全国規模で、人口減少が始まっている中、沖縄の〈人口増減率も１位〉、という理由がよく理解できます。しかも社会増減率（社会的移動による増減）が８位にとどまるのに対し、〈自然増減率が１位〉なのです。沖縄県に関して言えば、一般的に言われる高齢化社会の到来、とは少し様相が違うようです。人口増加は経済成長の最大の原動力ですから沖縄の先行きはまだまだ大丈夫、と言えると思います。ちなみに〈婚姻率は２位〉、〈離婚率は１位〉です。

経済面から見ると、〈県民所得は依然47位〉、〈貯蓄年収比率も47位〉。産業構成面から見ると〈製造業構成比47位〉。事業の〈開業率は１位〉ですが、〈廃業率も１位〉。これは資本や技術が蓄積され雇用も安定している製造業の少なさが県民所得に影響している、という見方もできますし、また開業率、廃業率の１位は新規企業の経営が安定していない（ぱっと始めて、ぱっとやめる？）、という見方も可能です。

今、県内景況は国内外の観光客の増加や、堅調な個人消費、建設需要に支えられ、近い将来は空港の滑走路増設による経済効果も期待されています。しかし、この冊子に示されている以下の数字を見ると少し不安になります。〈新規高校卒業者の就職率47位〉、〈新規高校卒業者無業者比率１位〉、〈新規大学卒業者無業者比率１位〉、そして、〈離職率１位〉、さらに〈大学進学率47位〉、〈書籍・雑誌販売額（一人当たり）47位〉。

県民性として片付けてしまうのは簡単ですが、産業の基礎は「人材」そのものであることは論を待たないでしょう。若い世代に労働の尊さ、仕事の厳しさや楽しさ、忍耐力を身につけてもらうことの重要性は、本誌読者の皆様にはご共感いただけると思います。企業経営者一人ひとりが、若い人の成長を辛抱強く見守り、後押しできる企業を目指していきたいものです。道のりはかなり遠いですが、今から取組むべき最重要の課題ではないでしょうか。

最後にもうひとつのデータ、県民の誇りであった平均寿命、女性は３位、男性、すでに29位、になっています。さあ、男性諸君、ビールばっかり飲んでないで、ウォーキング、ウォーキング。自戒を込めて。

（㈱おきぎん経済研究所　代表取締役社長　出村郁雄）